

令和 4 年度

高齢者生活・介護に関する実態調査等

《調査結果概要》

高 森 町

I 調査の目的・概要

1 調査目的

高森町内高齢者の生活実態や介護サービスの利用に対する意向に関する調査を実施し、次期介護保険事業（支援）計画策定等に向けた基礎資料とする。

2 調査期間

令和4年11月～令和4年12月

3 調査内容、対象者、回収状況

内 容	対 象	調査実施数	有効回答数 (回答率)
高齢者の生活・介護に関する実態調査	① 元気高齢者 要介護・要支援認定を受けていない高齢者のうち、保険者が性別・年齢を考慮して抽出したもの	400 名	<u>292 名</u> (73.0%)
	② 認定者 居宅の要介護・要支援の認定を受けている被保険者及びその介護者	400 名	<u>259 名</u> (64.8%)

4 報告書の見方

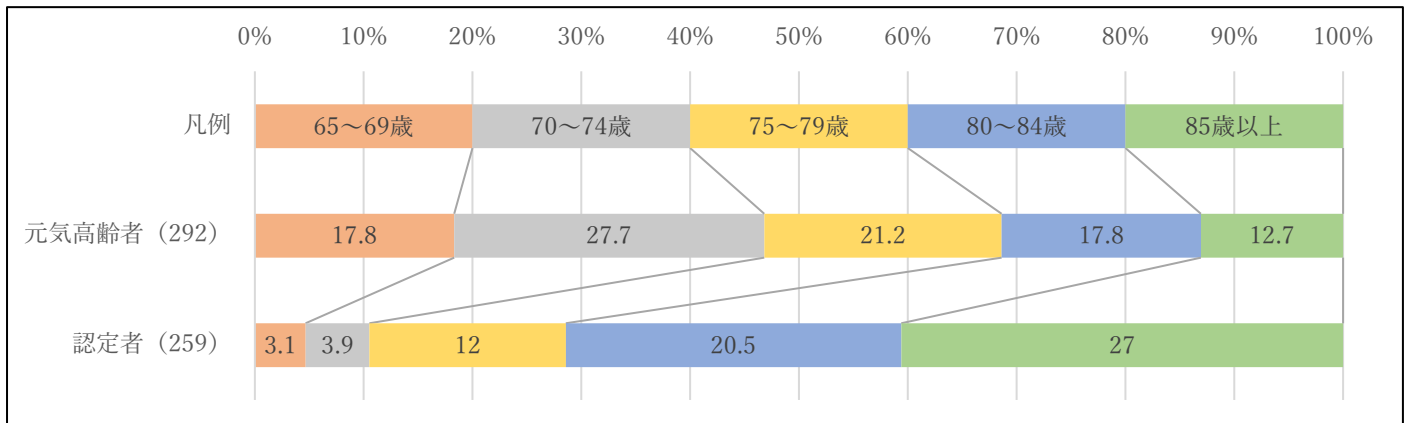
○回答率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、比率の数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。

○回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答可の説問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。

Ⅱ 高齢者の生活・介護に関する実態調査

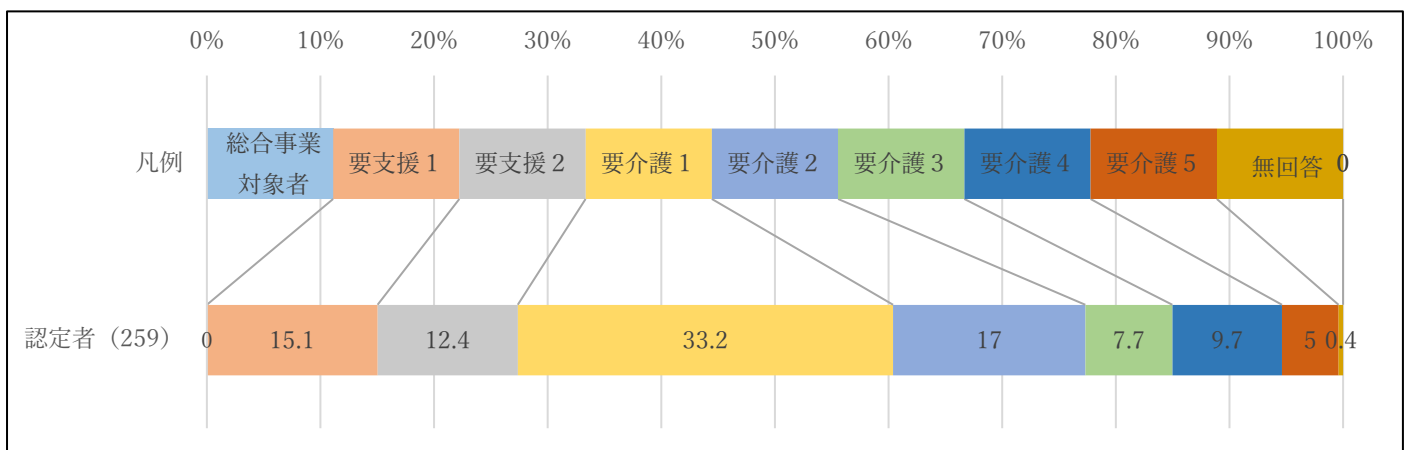
1 回答者の年齢

・元気高齢者は74歳以下の前期高齢者が約半数となっているのに対し、認定者は75歳以上の後期高齢者が約9割となっている。



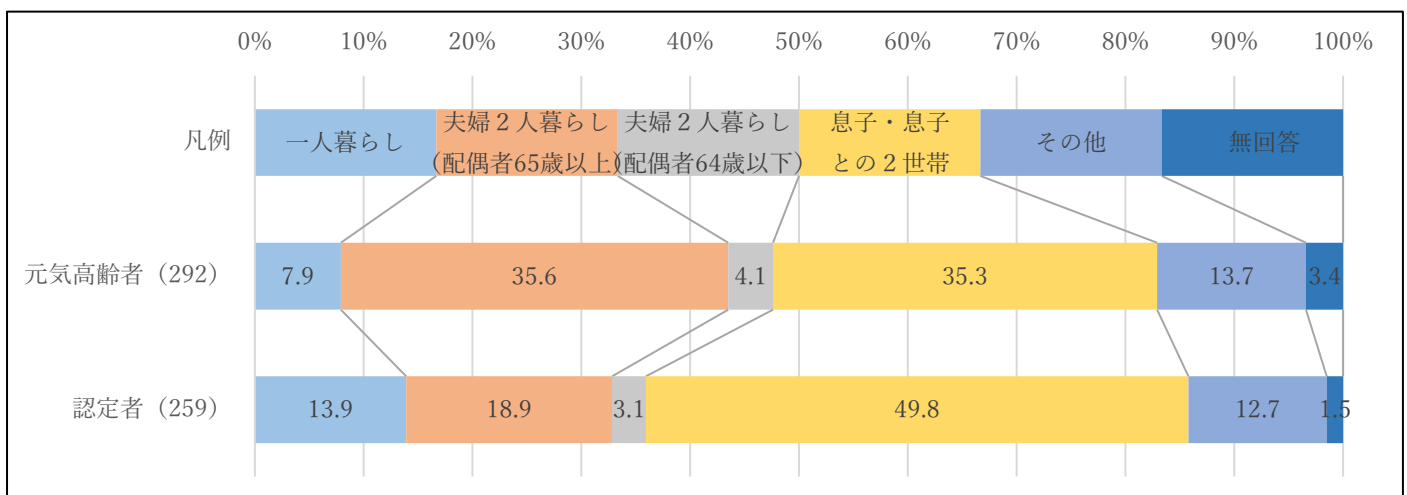
2 回答者の要介護度【認定者のみ】

・「要支援」が2.5割越える。また「要介護1～2」を足して50%と比較的に介護度が軽度の方が多い。



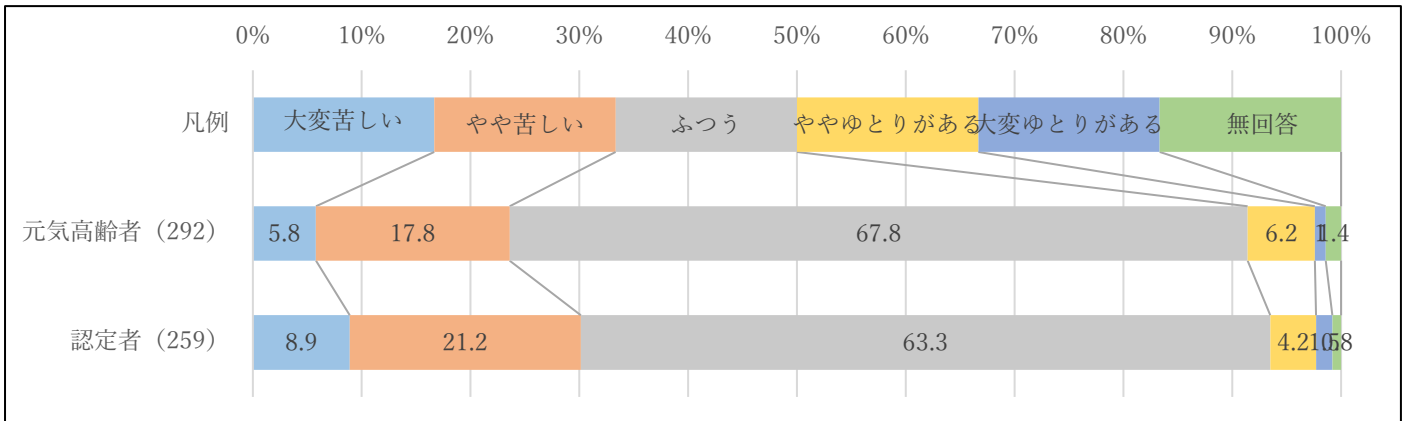
3 家族構成

・元気高齢者は、夫婦2人暮らしが最も多く、認定者は「息子・娘との2世帯」が最も多くなっている。



4 経済的にみた生活の状況

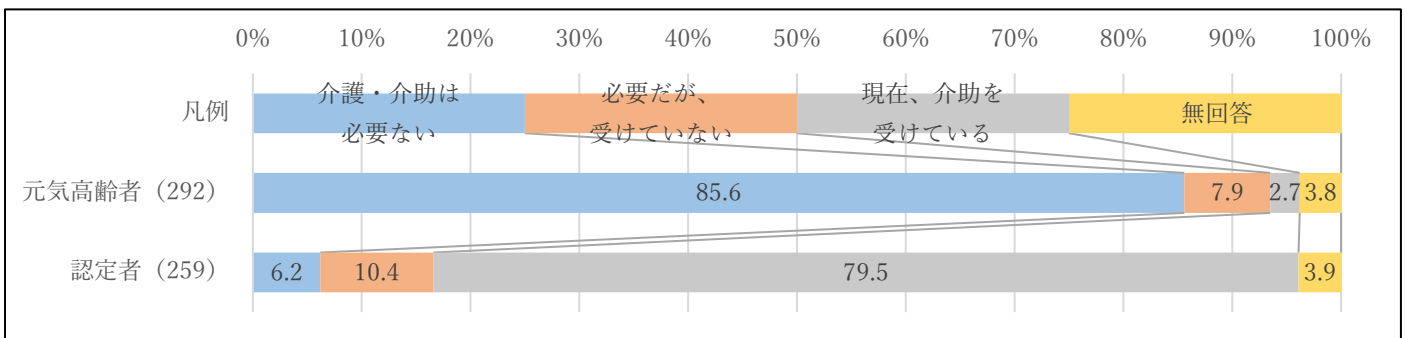
- ・元気高齢者、認定者ともに「ふつう」が最も多いが、『苦しい』（大変苦しい+やや苦しい）が『ゆとりがある』（大変ゆとりがある+ややゆとりがある）を上回っている。



5 介護の状況

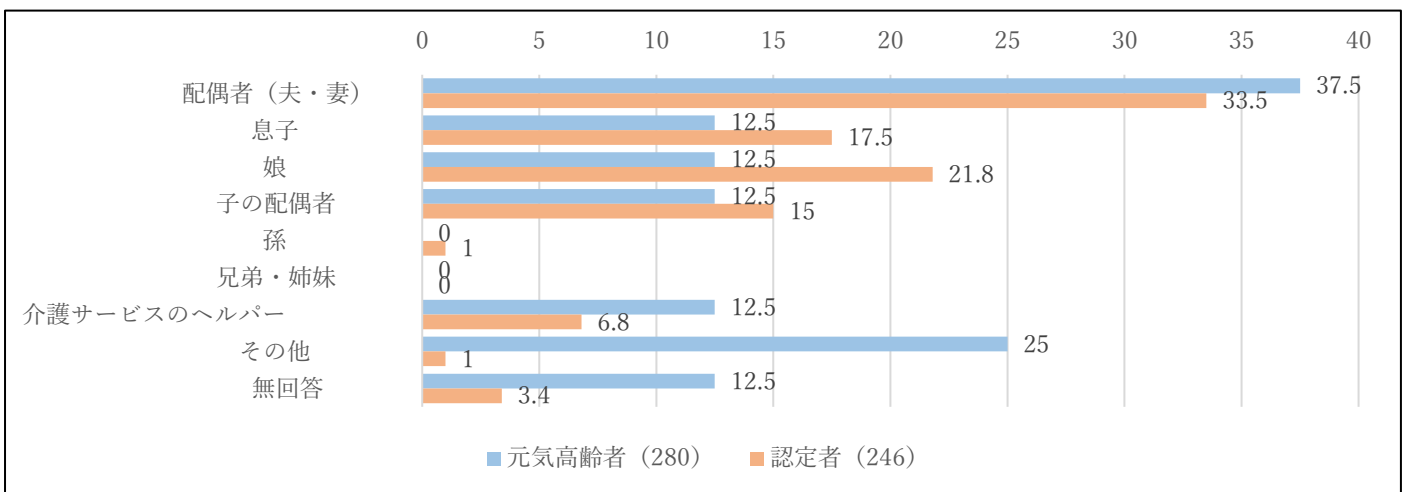
(1) 日常生活上の介護の必要性

- ・元気高齢者は「必要だが、受けていない」という方が1割弱いる。認定者は「現在、介護を受けている」が約8割となっているとともに、必要だが受けていない方が1割を超えている。



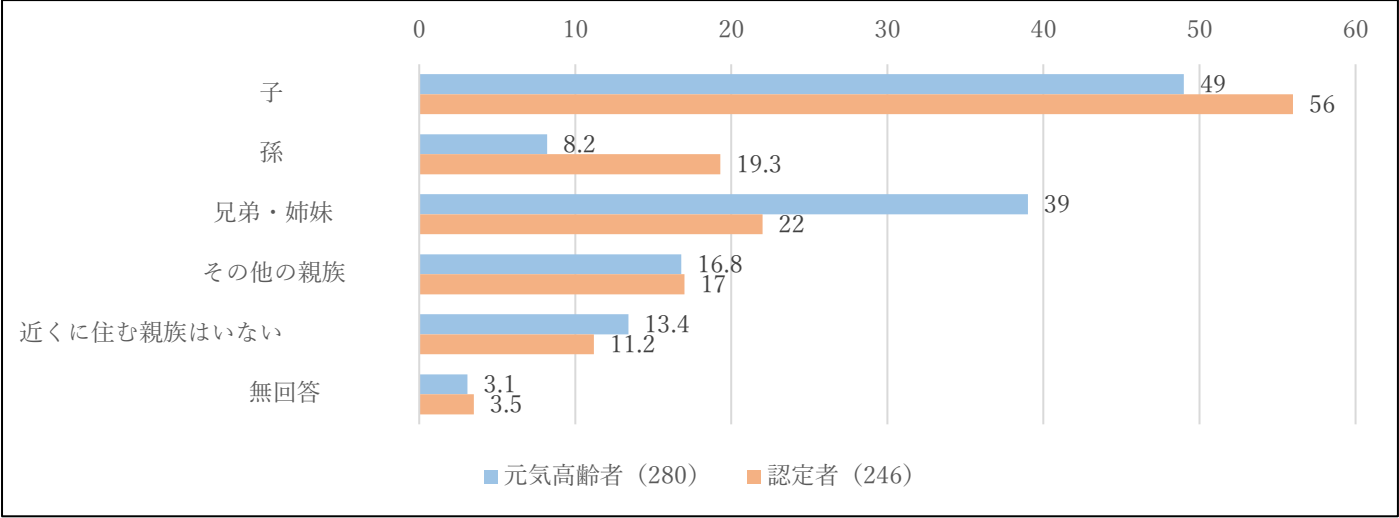
(2) 主な介護者の続柄

- ・元気高齢者と認定者は配偶者（夫・妻）ともに3割を超え最も多くなっている。



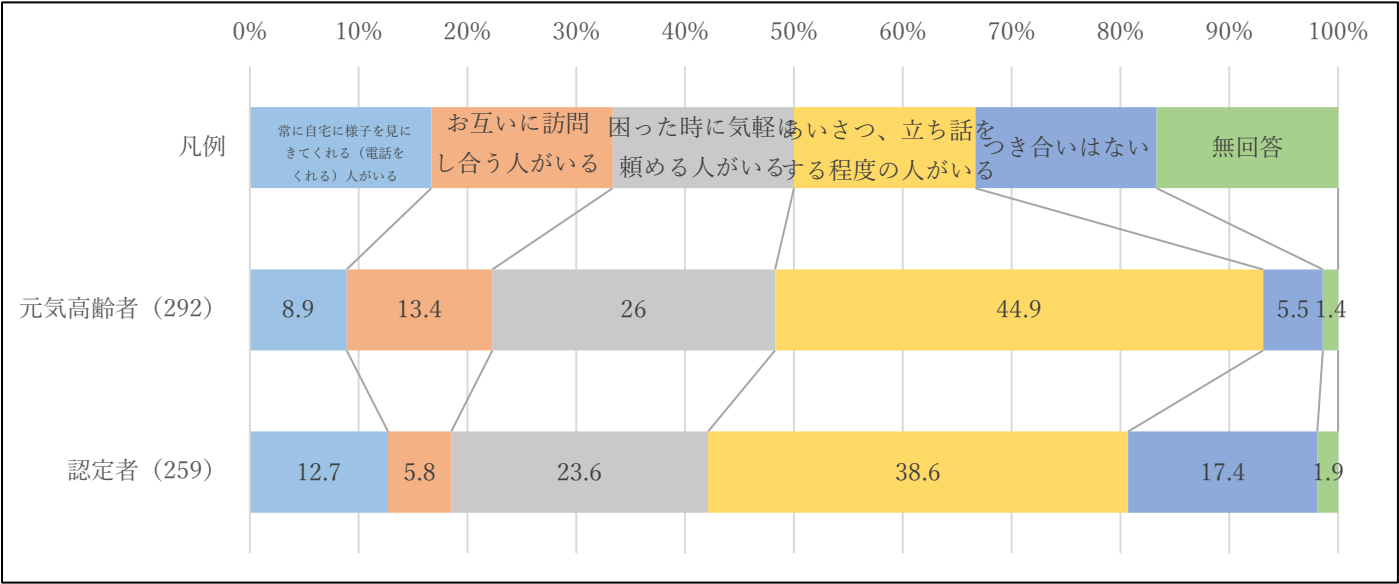
6 急病の時などで手助けが必要な時に駆けつけてくれる親族（複数回答）

・元気高齢者、認定者ともに「子」が最も多い。「近くに住む親族はいない」がともに1割を超えている。



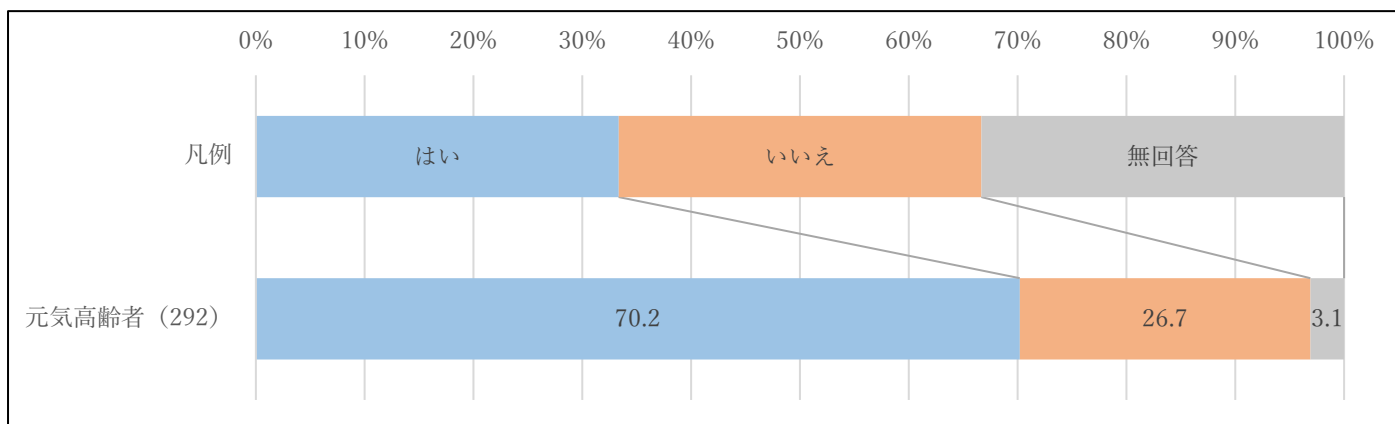
7 近所の方との付き合いの程度

・元気高齢者、認定者ともに「あいさつ、立ち話をする程度の人がある」が最も多い。認定者では「つき合いはない」が約1.7割となっている。



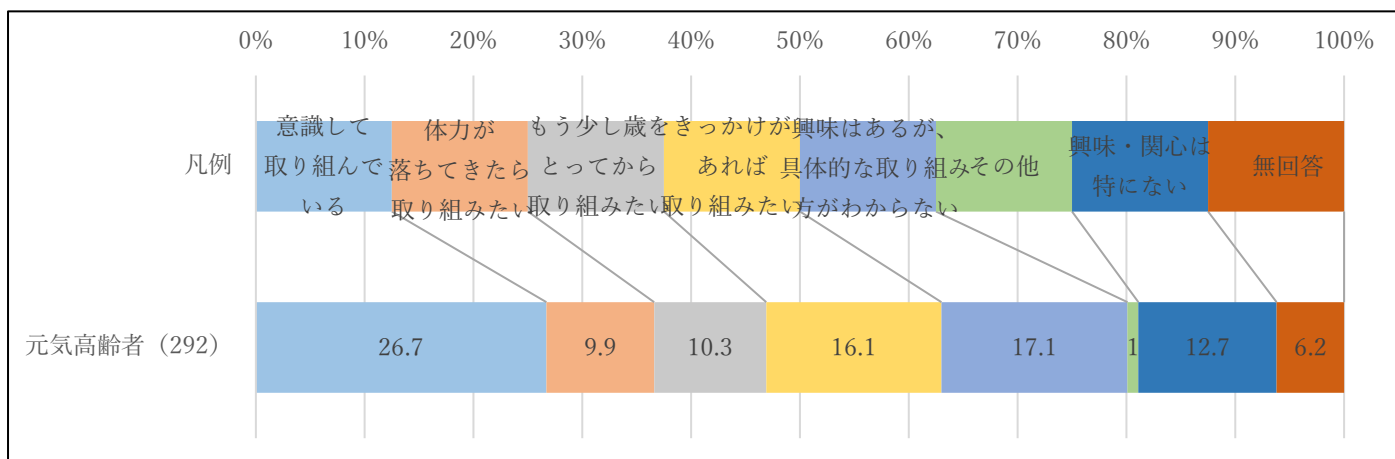
8 年1回以上の健康診断の受診の有無【元気高齢者のみ】

・約7割の方が、年1回以上の健康診断を受診している。



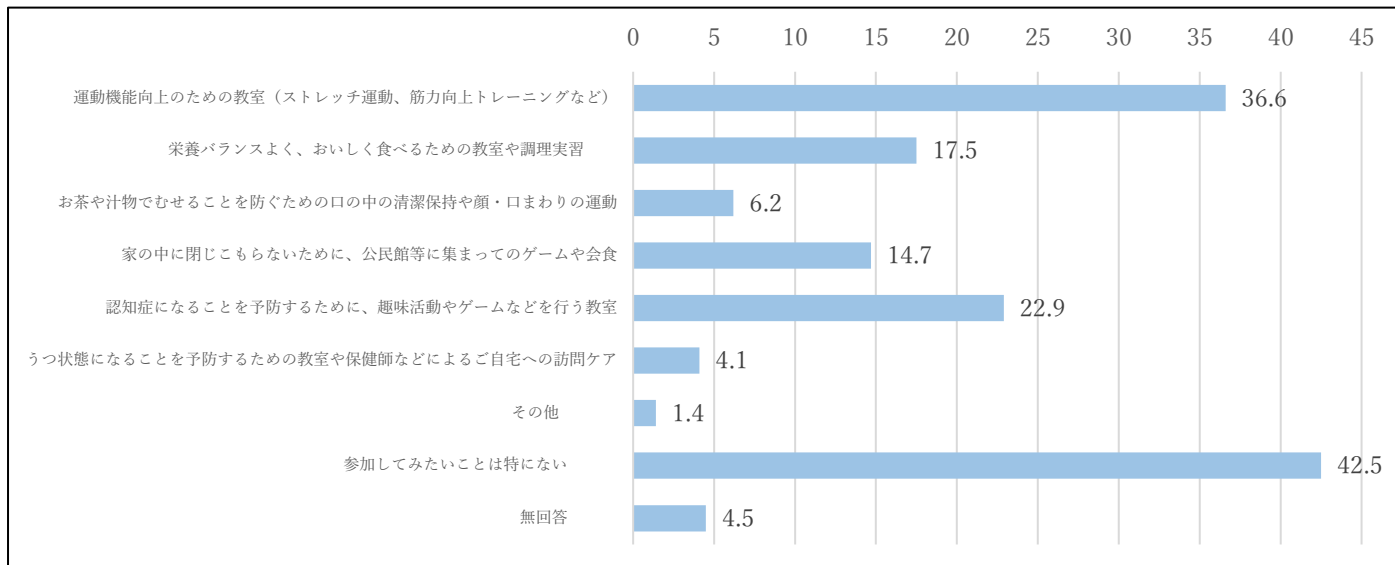
9 介護予防への取り組み状況【元気高齢者のみ】

・「意識して取り組んでいる」が最も多いが、「興味・関心がない」が1割を超えている。



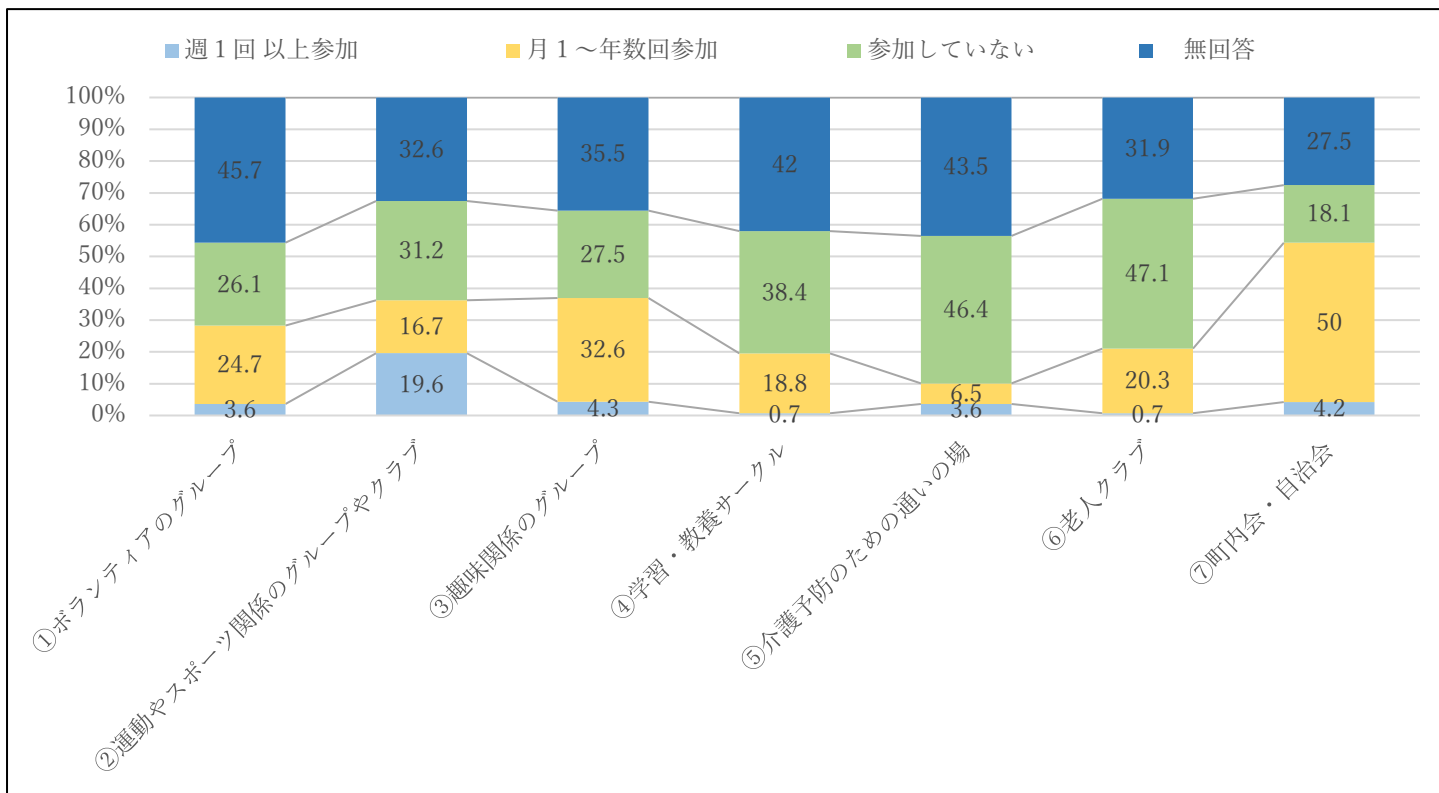
10 今後参加してみたい介護予防事業（複数回答）【元気高齢者のみ】

・「運動機能向上のための教室」が3割を超えているが、「参加してみたいことは特にな



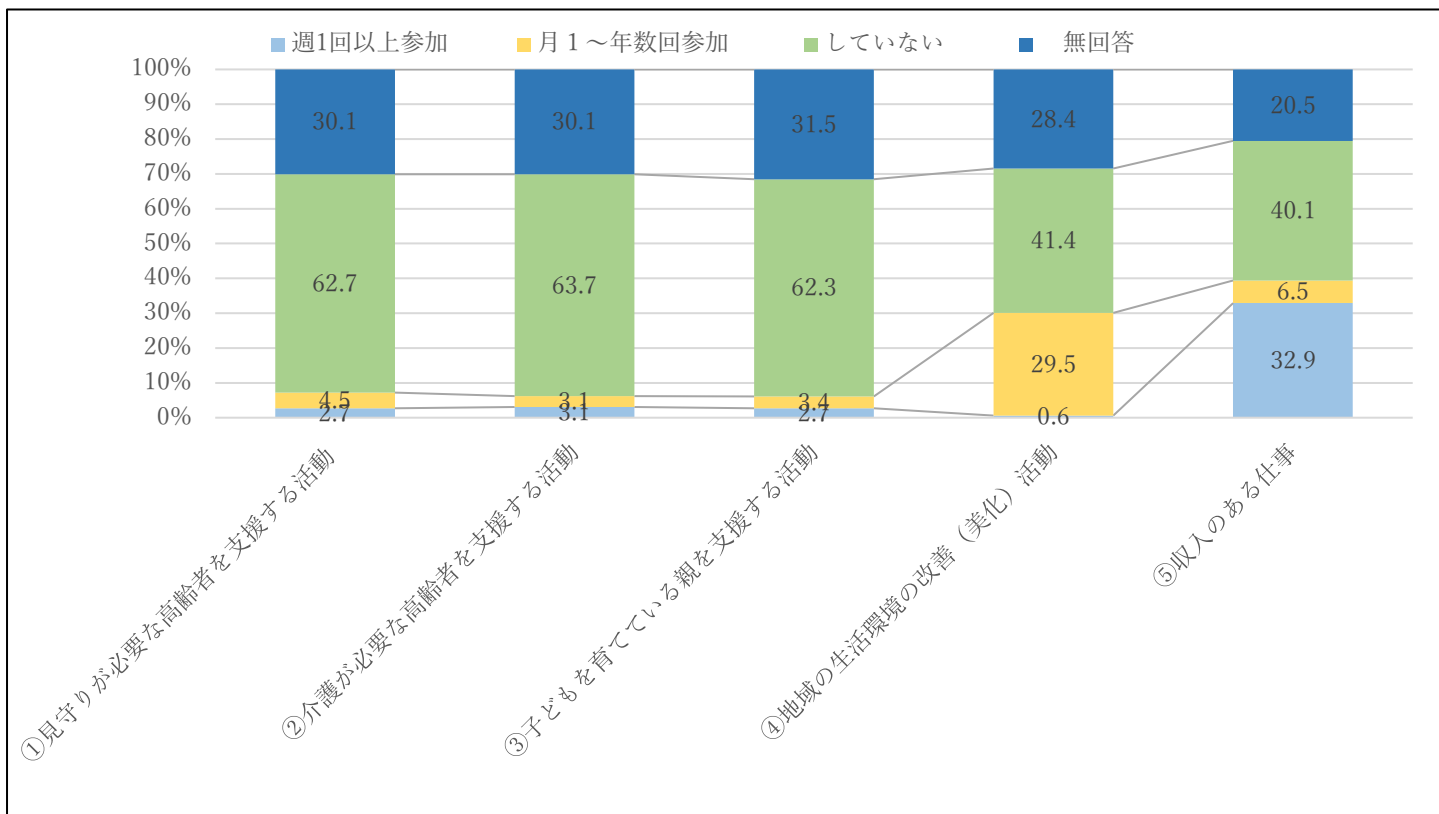
1 1 地域の会やグループへの参加頻度【元気高齢者のみ】

・各活動で「参加していない」が占める割合が多い。年数回以上参加している方（週1回以上参加＋月1～年数回参加）は③、⑦が多く3割を超えている。



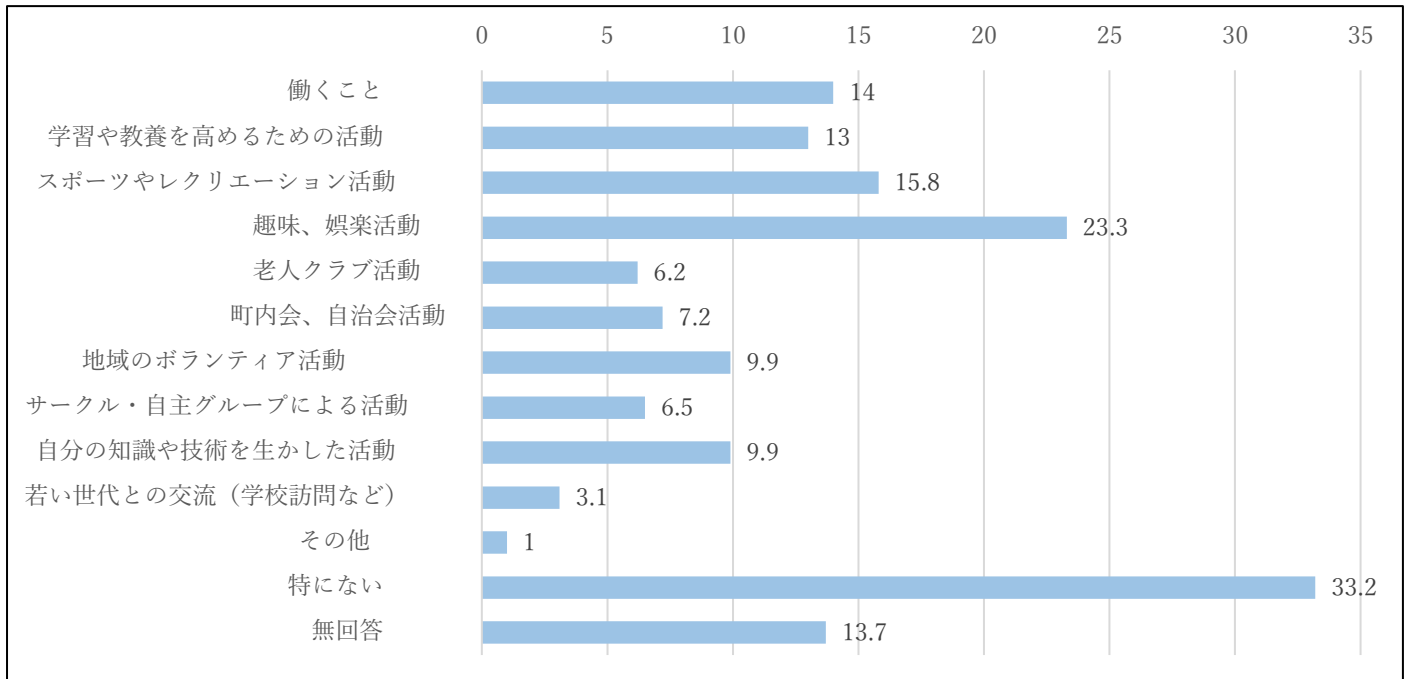
1 2 社会参加活動や仕事への参加頻度【元気高齢者のみ】

・すべての活動で「参加していない」が最も多く、無回答と合わせると①、②、③で9割を超えている。



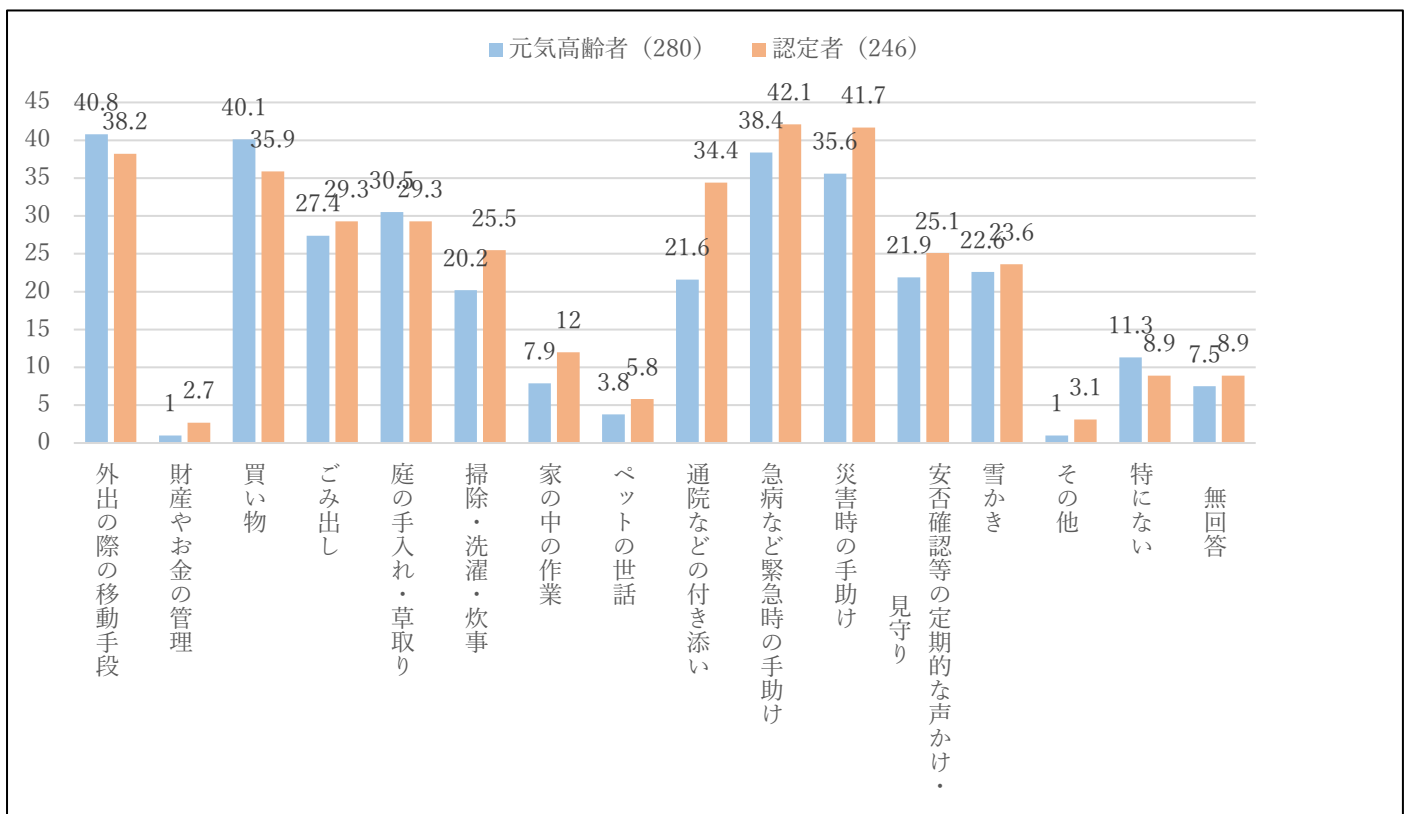
1 3 参加したい・参加できると思う活動（複数回答）【元気高齢者のみ】

・「趣味、娯楽活動」が2割を超えており、次いで「スポーツやレクリエーション活動」「働くこと」「学習や教養を高めるための活動」が1割を超えている。「特にない」が最も多く、無回答と合わせると4割を超える。



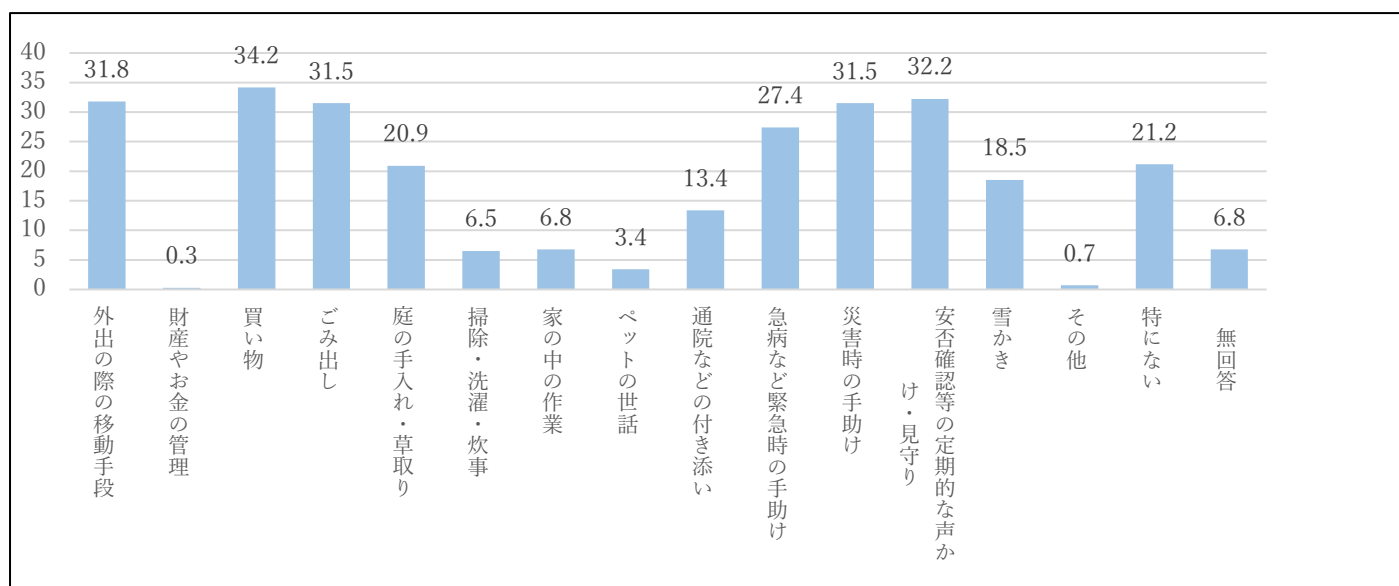
1 4 日常生活上の支援が必要になったとき、地域の人にしてほしい支援（複数回答）

・元気高齢者は「外出の際の移動手段」が最も多く、次いで「買い物」が多い。認定者は「急病など緊急時の手助け」が最も多く、次いで「災害時の手助け」が多い。



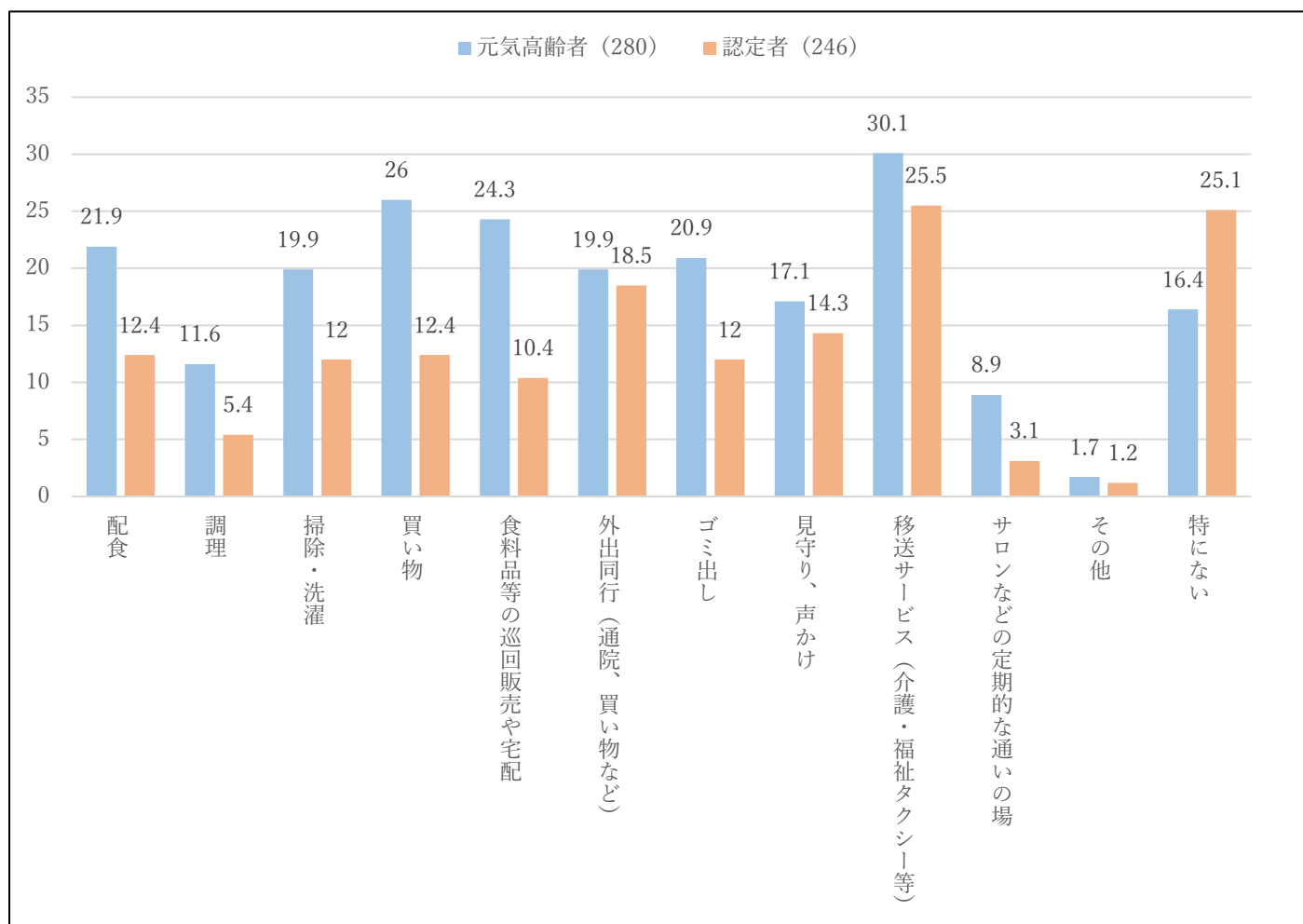
1 5 となり近所や地域の人にできる支援（複数回答）【元気高齢者のみ】

・「外出の際の移動手段」「買い物」「ごみ出し」「災害時の手助け」「安否確認等の定期的な声掛け・見守り」が最も多くいずれも3割を超えている。次いで「急病など緊急時の手助け」が多い。



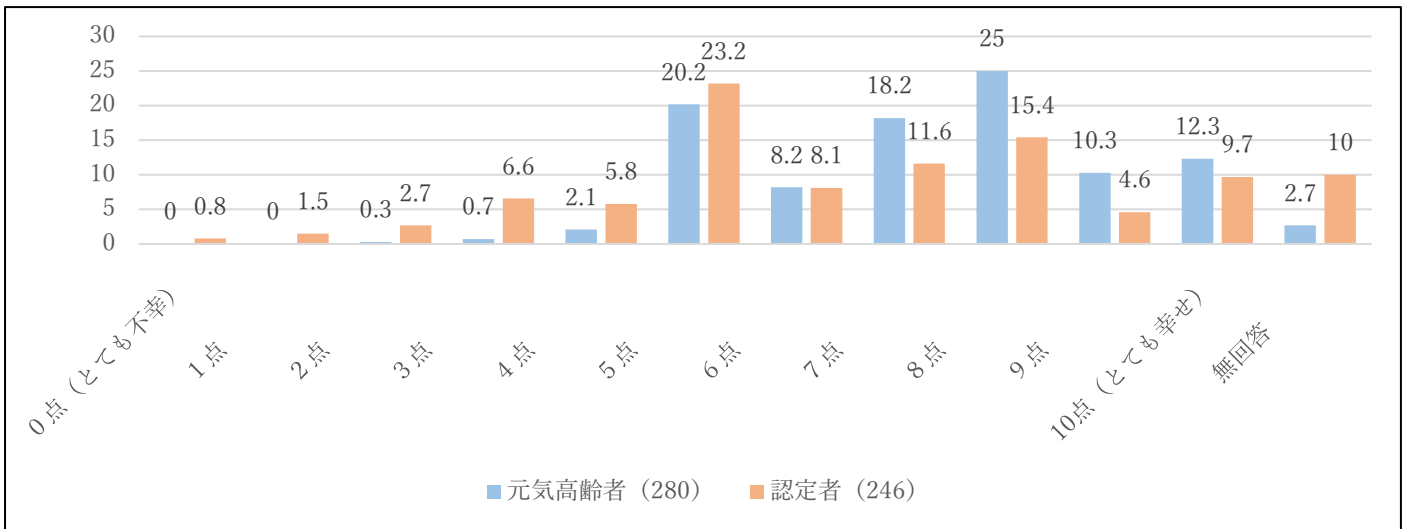
1 6 今後の自宅での生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）

・元気高齢者、認定者ともに「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多くなっている。



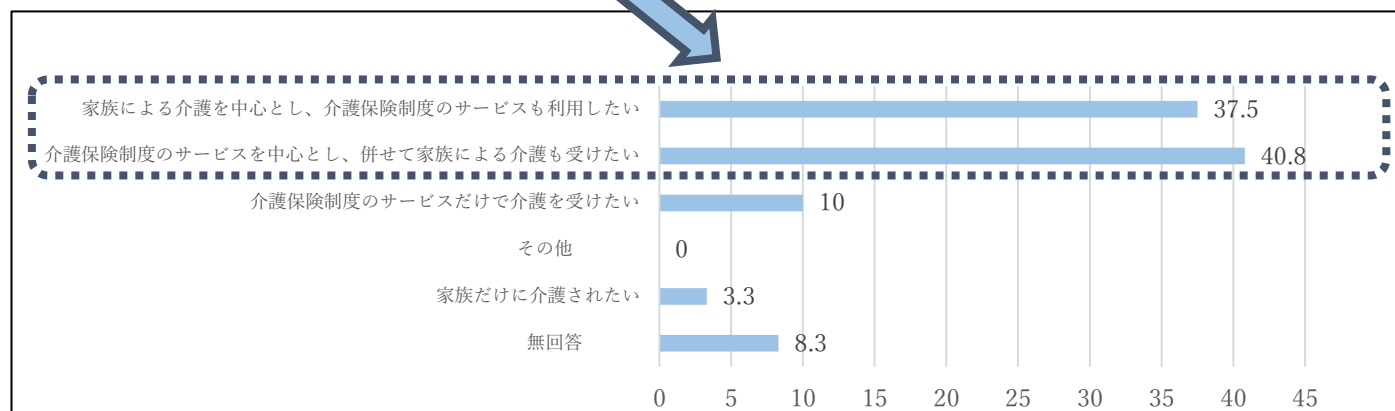
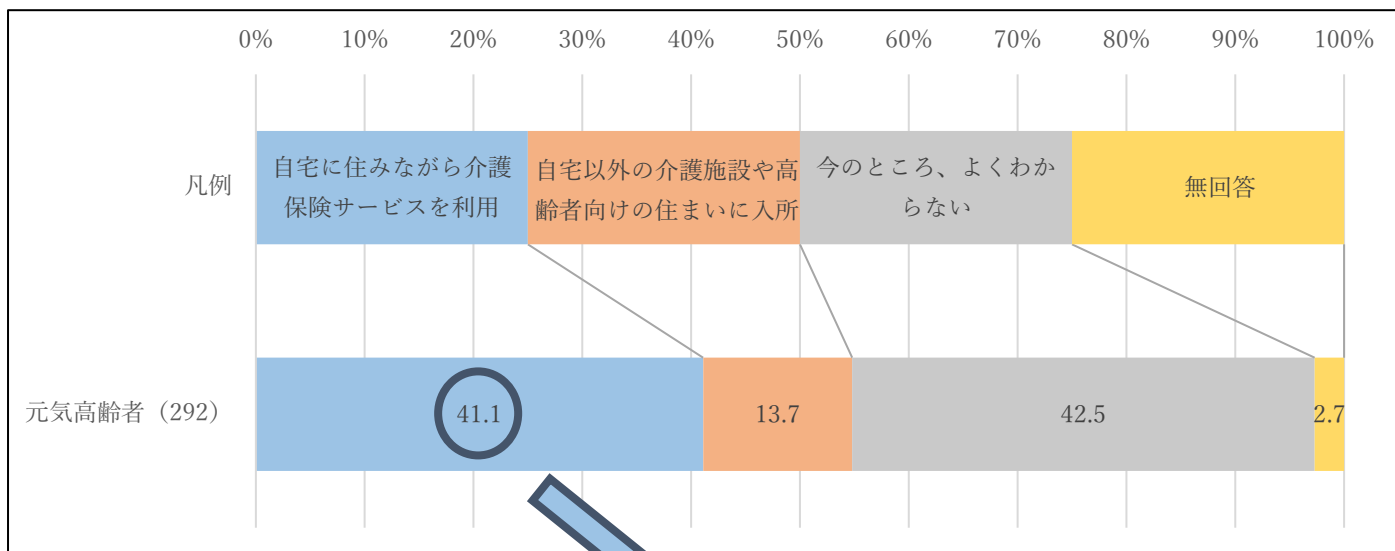
17 現在の幸福度

- ・元気高齢者は「9点」が最も多く、認定者は「6点」が多い



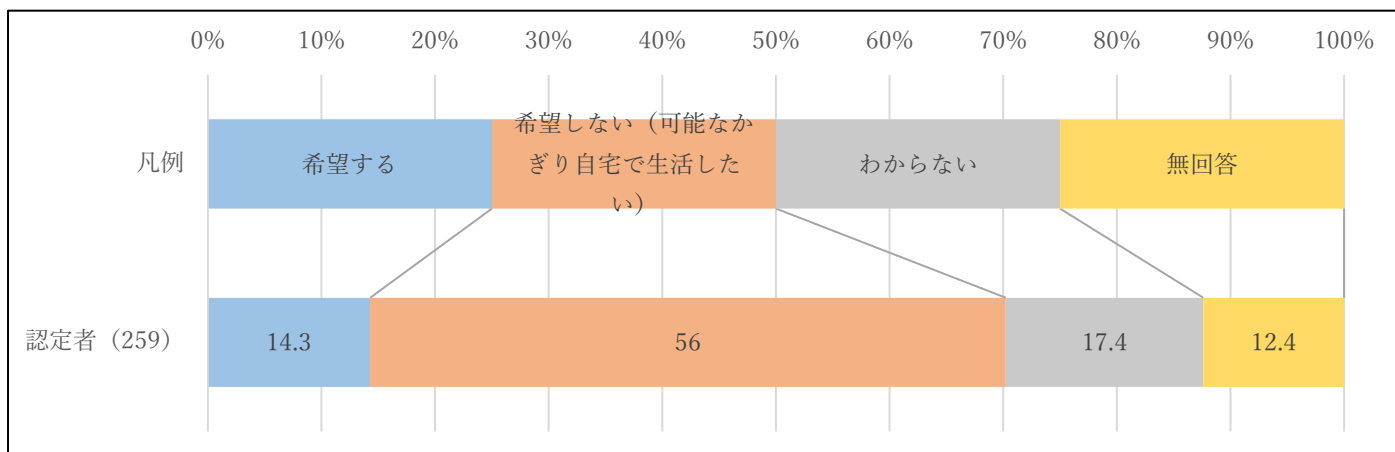
1 8 介護が必要になった場合の生活について【元気高齢者のみ】

・「今のところよくわからない」がもっとも多いが、次いで「自宅に住みながら介護保険サービスを利用」が4割以上を占めている。自宅での生活を望む人の介護サービスの利用意向を見ると「家族による介護を中心とし、介護保険制度のサービスも利用したい」「介護保険制度のサービスを中心とし、併せて家族による介護も受けたい」が8割弱いる。



1 9 施設や高齢者向け住まいへの入所（入居）意向【認定者のみ】

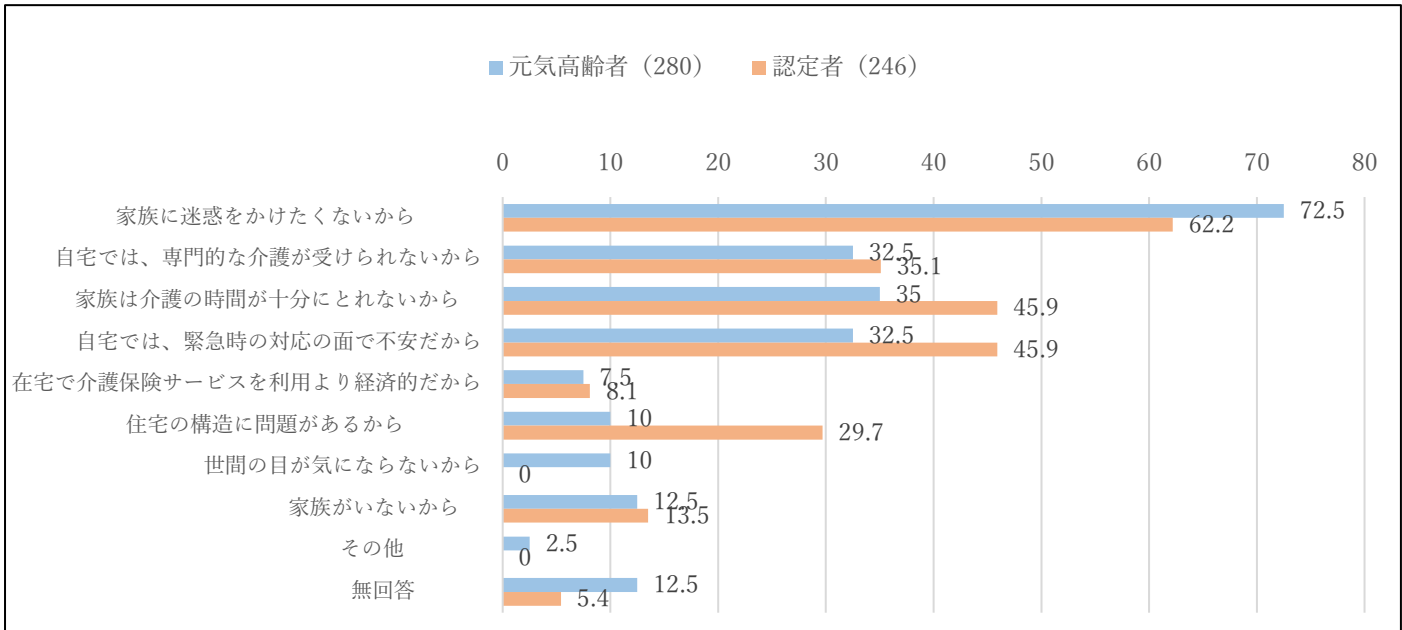
・「希望しない（可能な限り自宅で生活したい）」が半数以上を占め、「施設や高齢者向け住まいへの入所（入居）を希望する人」と「わからない」は1割以上となっている。



2 0 施設や高齢者向け住まいへの入所（入居）を希望する理由（複数回答）

【18 と 19 で施設や高齢者向け住まいへの入所（入居）を希望する方のみ】

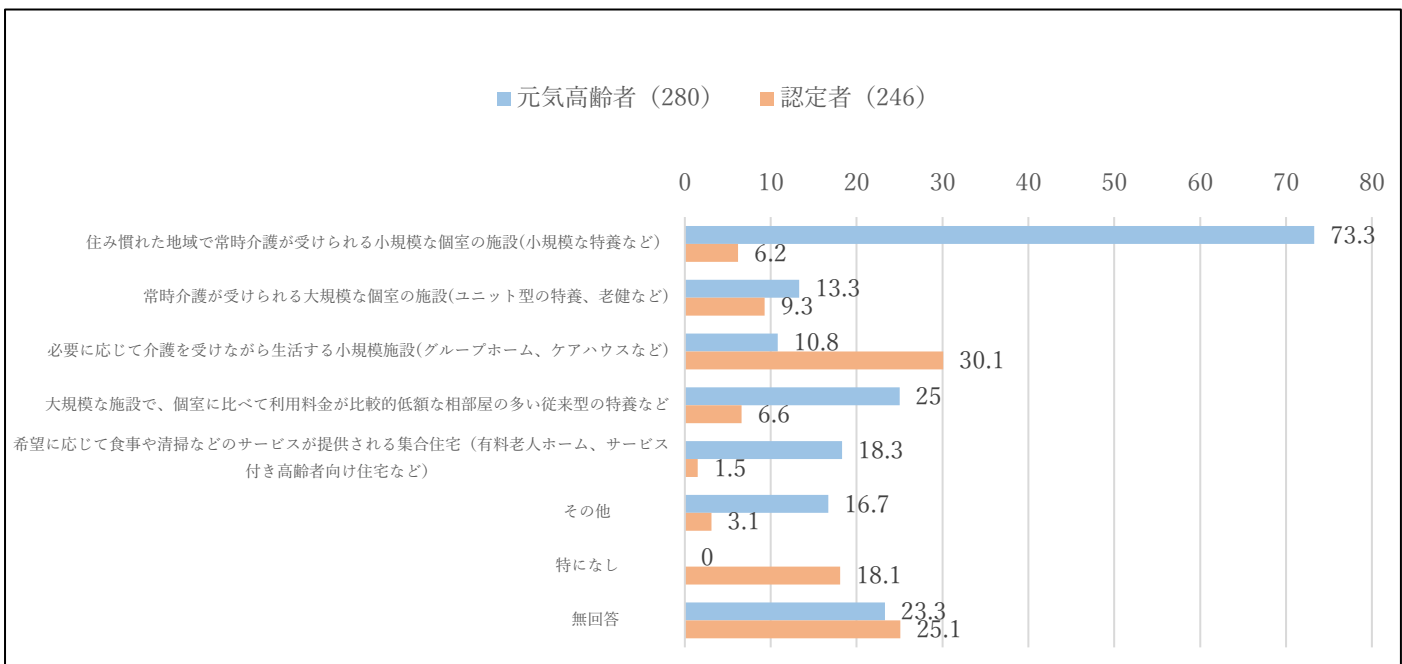
・認定者では「家族に迷惑をかけたくないから」が最も多く、次いで「家族は介護の時間が十分に取れないから」「自宅では、緊急時の対応の面で不安だから」となっている。元気高齢者は、「家族に迷惑をかけたくない」が突出して最も多くなっている。



2 1 入所（入居）を希望する「施設」や「高齢者向けの住まい」の形態

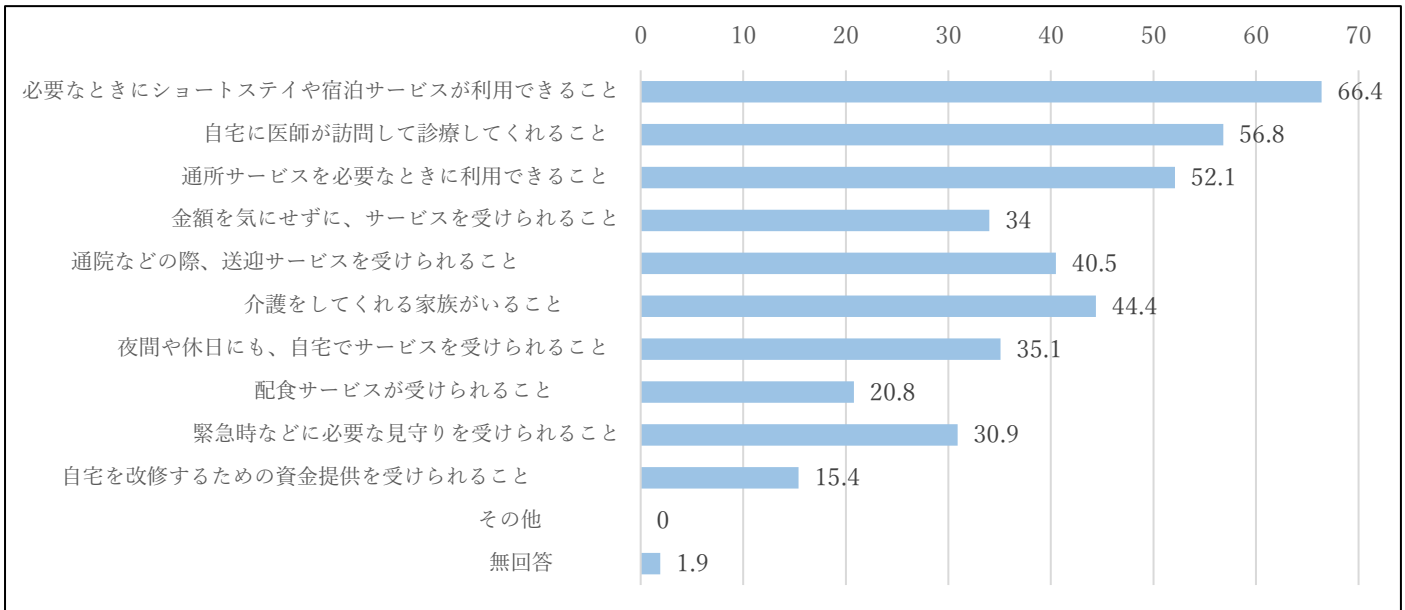
【元気高齢者は 18 で施設や高齢者向け住まいへの入所（入居）を希望する方のみ】

・元気高齢者は「住み慣れた地域で介護が受けられる小規模な施設（小規模な特養など）」が突出して高くなっている



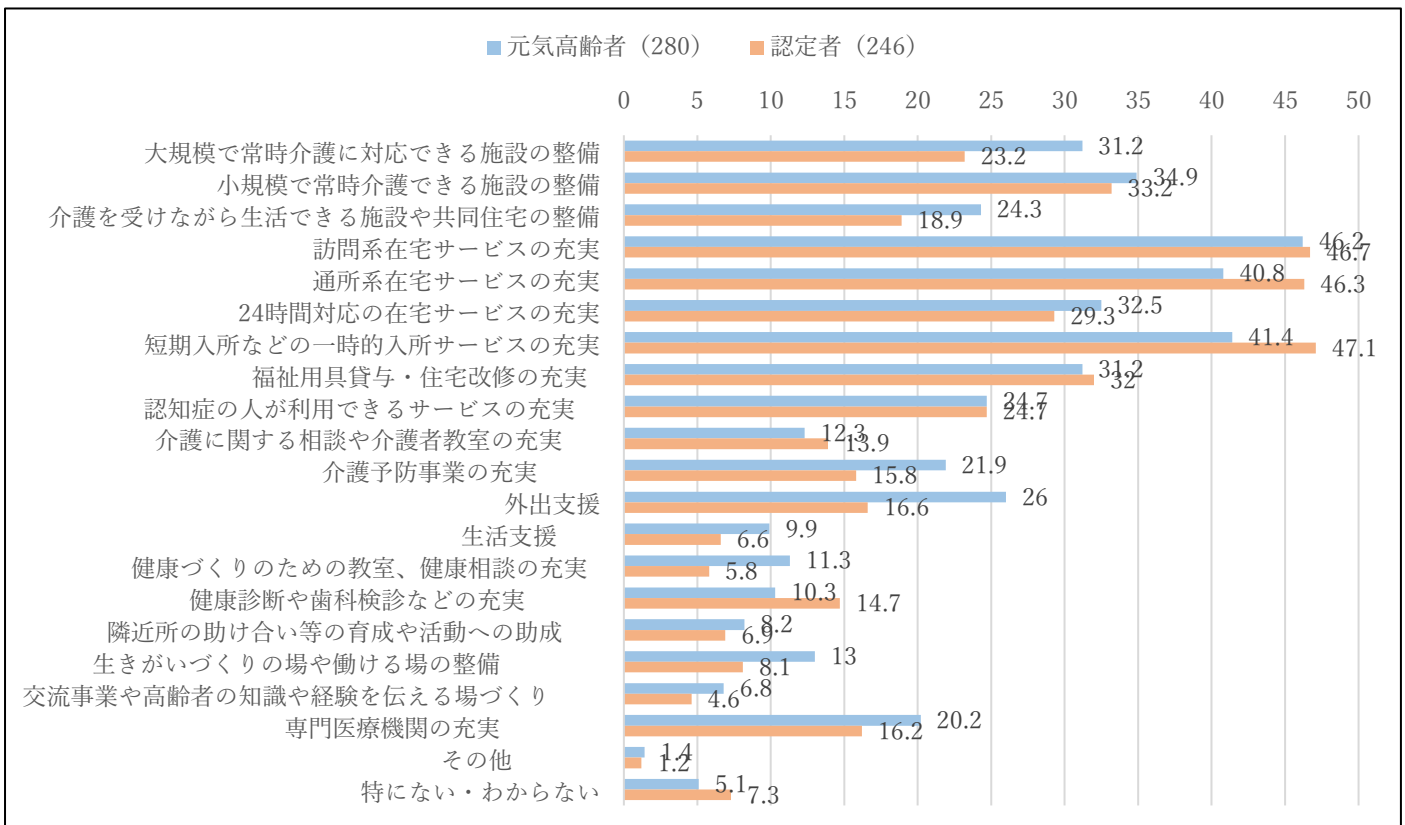
2 2 自宅で暮らし続けるためにあれば良いと思う支援（複数回答）【認定者のみ】

・「必要な時にショートステイ等が利用できること」が6割以上占めて最も多くなっている。次いで「自宅に医師が訪問して診療してくれること」「通所サービスが必要な時に利用できること」、「介護してくれる家族がいること」の順でともに5割、4割を超えている。



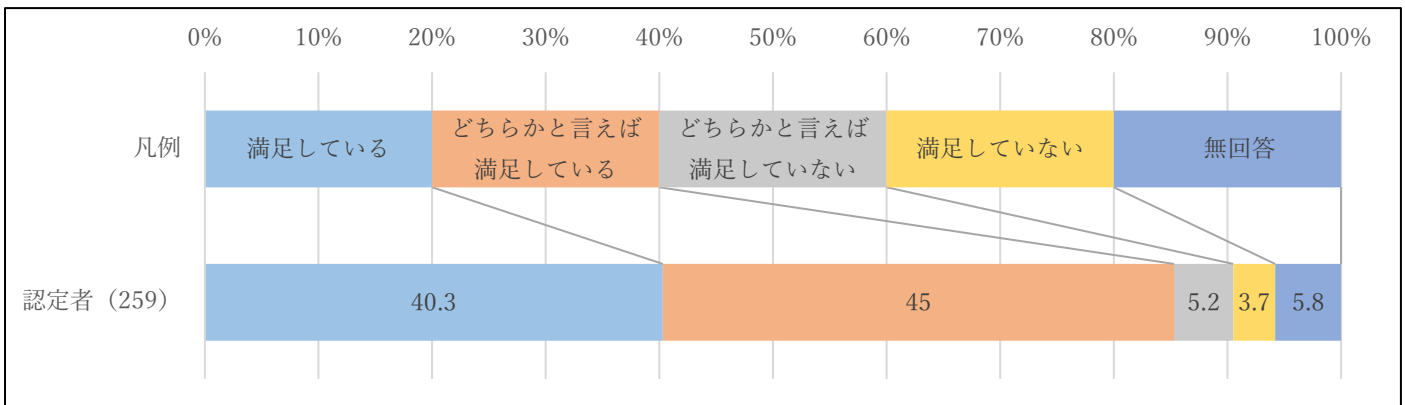
2 3 今後、介護や高齢者に必要な施策（複数回答）

・認定者は、「短期入所などの一時的入所サービスの充実」が最も多く、次いで「訪問系在宅サービスの充実」となっている。元気高齢者は「訪問系在宅サービスの充実」が最も多く、次いで「短期入所などの一時的入所サービスの充実」が多くなっている。



2 4 利用している介護保険サービスの満足度【サービスを利用している認定者のみ】

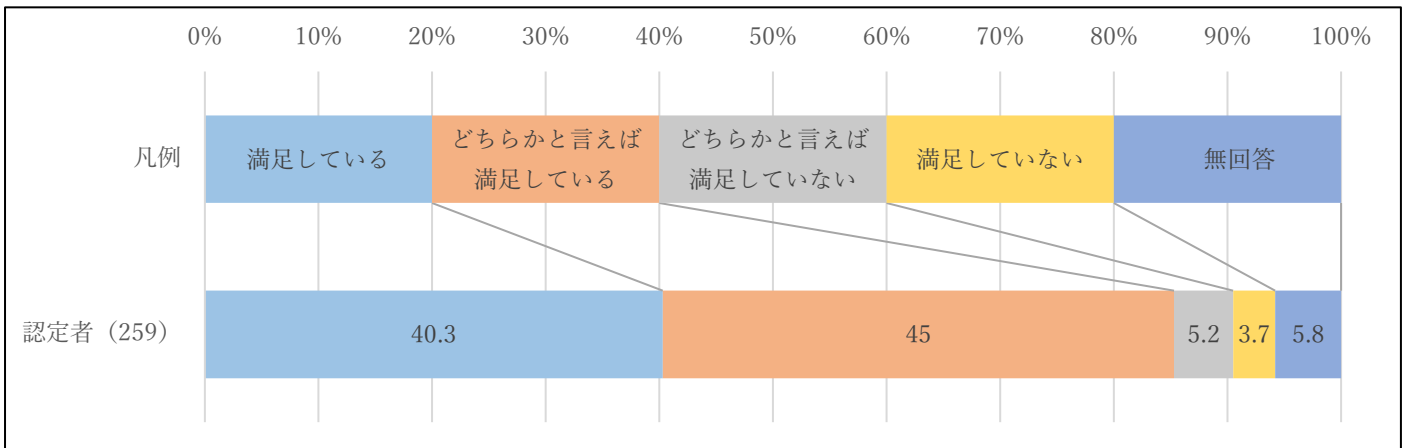
・「満足している」、「どちらかと言えば満足している」を合わせると 8 割以上となっている。



2 5 介護保険サービスを利用したことによる心身の状態の変化

【24 で介護保険サービスに満足していると回答した認定者のみ】

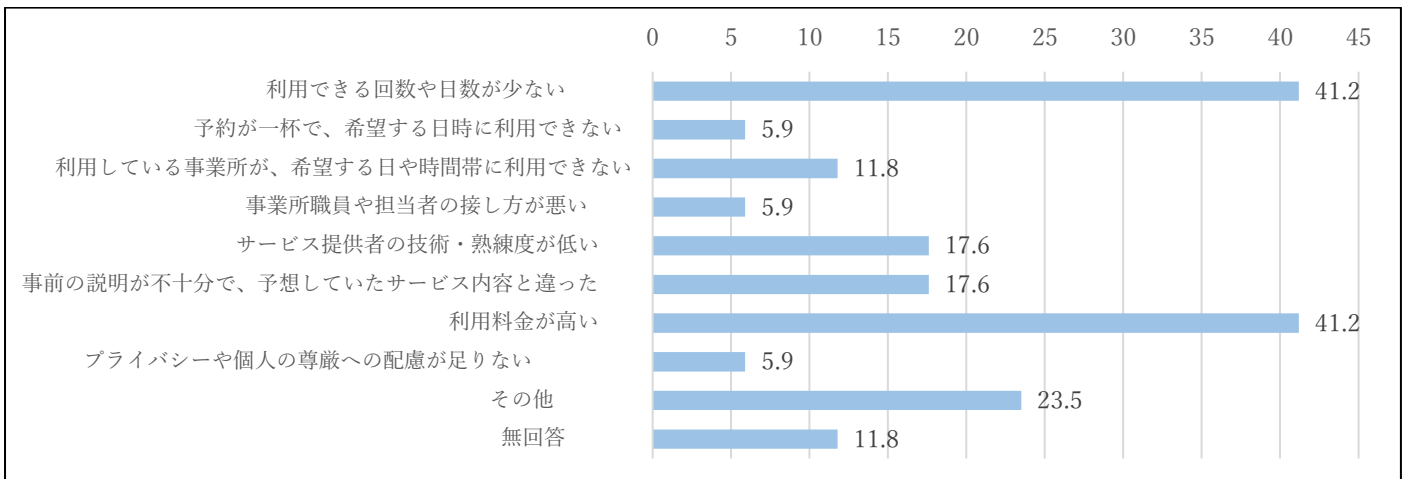
・「よくなった」、「どちらかと言えばよくなった」を併せると 6 割以上となっている。



2 6 （利用している介護保険サービスに満足されていない方のみ）不満な点

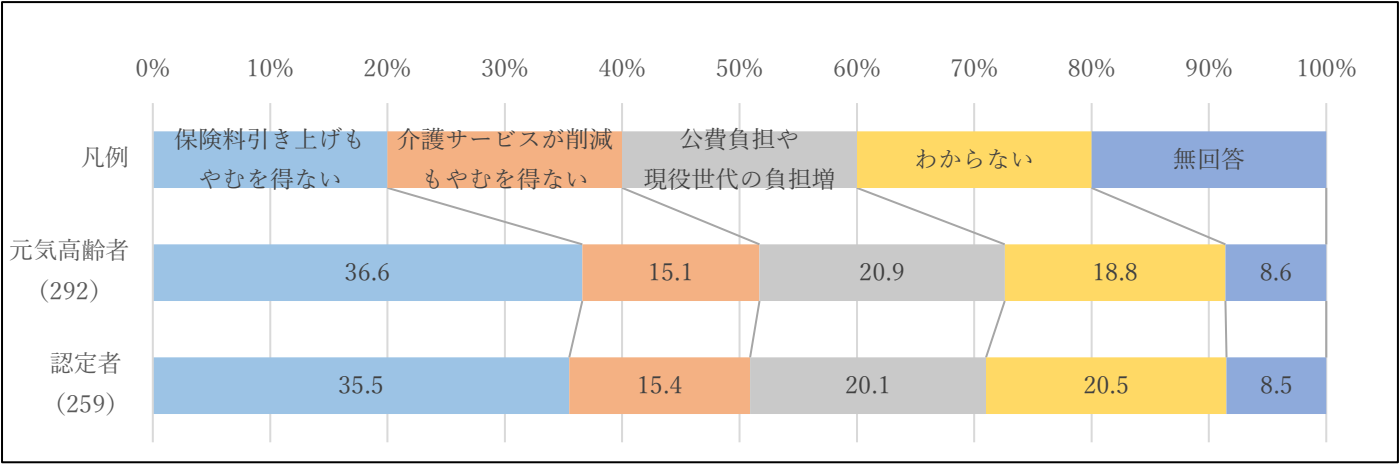
【24 で介護保険サービスに満足していないと回答した認定者のみ】

・「利用できる回数や日数が少ない」「利用料金が低い」が 4 割以上で最も多く、次いで「その他」となっている。



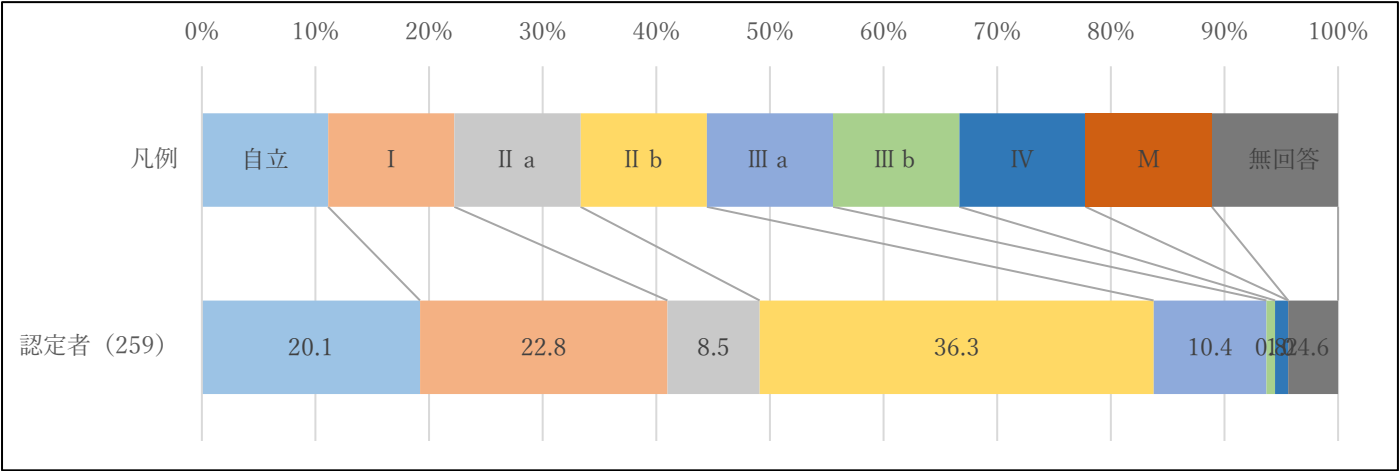
2 7 介護保険のサービスと保険料の関係に対する考え方

・ 認定者、元気高齢者ともに「保険料が引き上げられてもやむを得ない」が最も多い。



2 8 認知症高齢者の日常生活自立度【認定者のみ】

・「自立」、「I」併せて4割を超えとなっている。III以上（介護要する方）が1割を超えている。

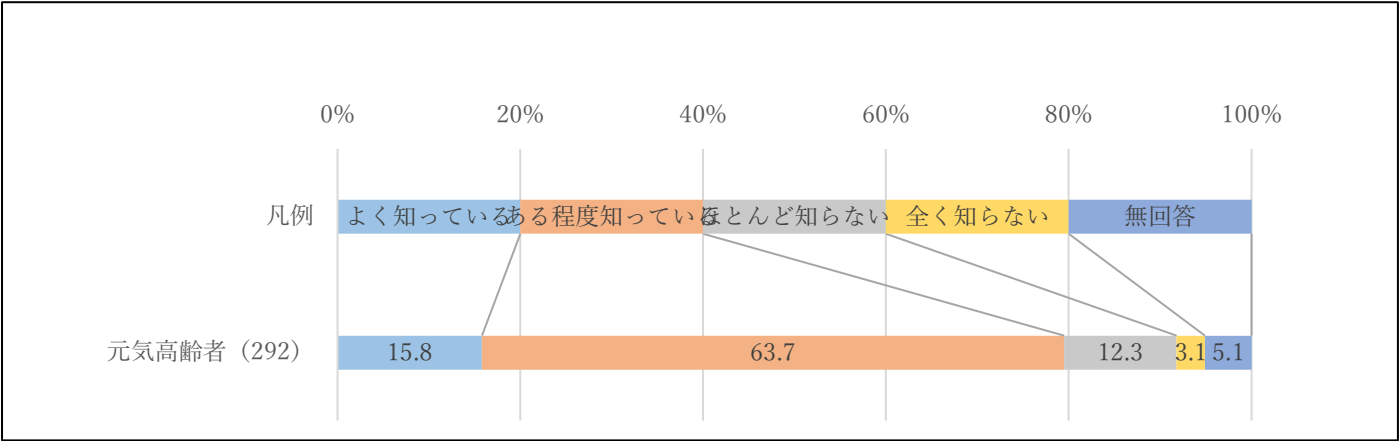


〈認知症高齢者の日常生活自立度の判定基準〉

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
	II b 家庭内で上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	着替え、食事、排尿・排便が上手にできない・時間がかかる、やたらにものを口に入れる、物を拾い集める、俳諧、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	
	III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自称・互い等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

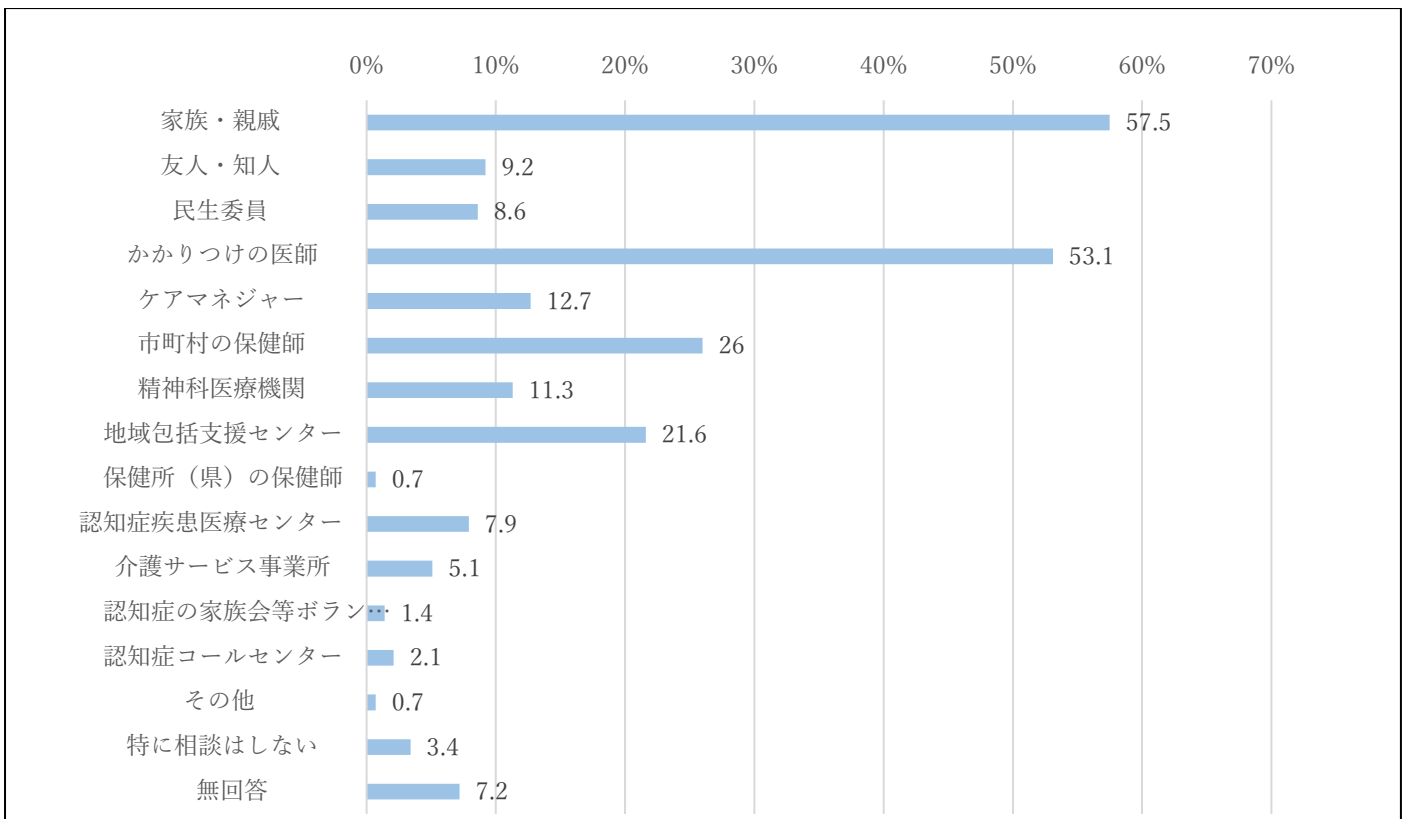
2 9 認知症という病気の認知

「よく知っている」「ある程度知っている」が8割弱である。また「ほとんど知らない」「全く知らない」を合わせると1割を超えている。



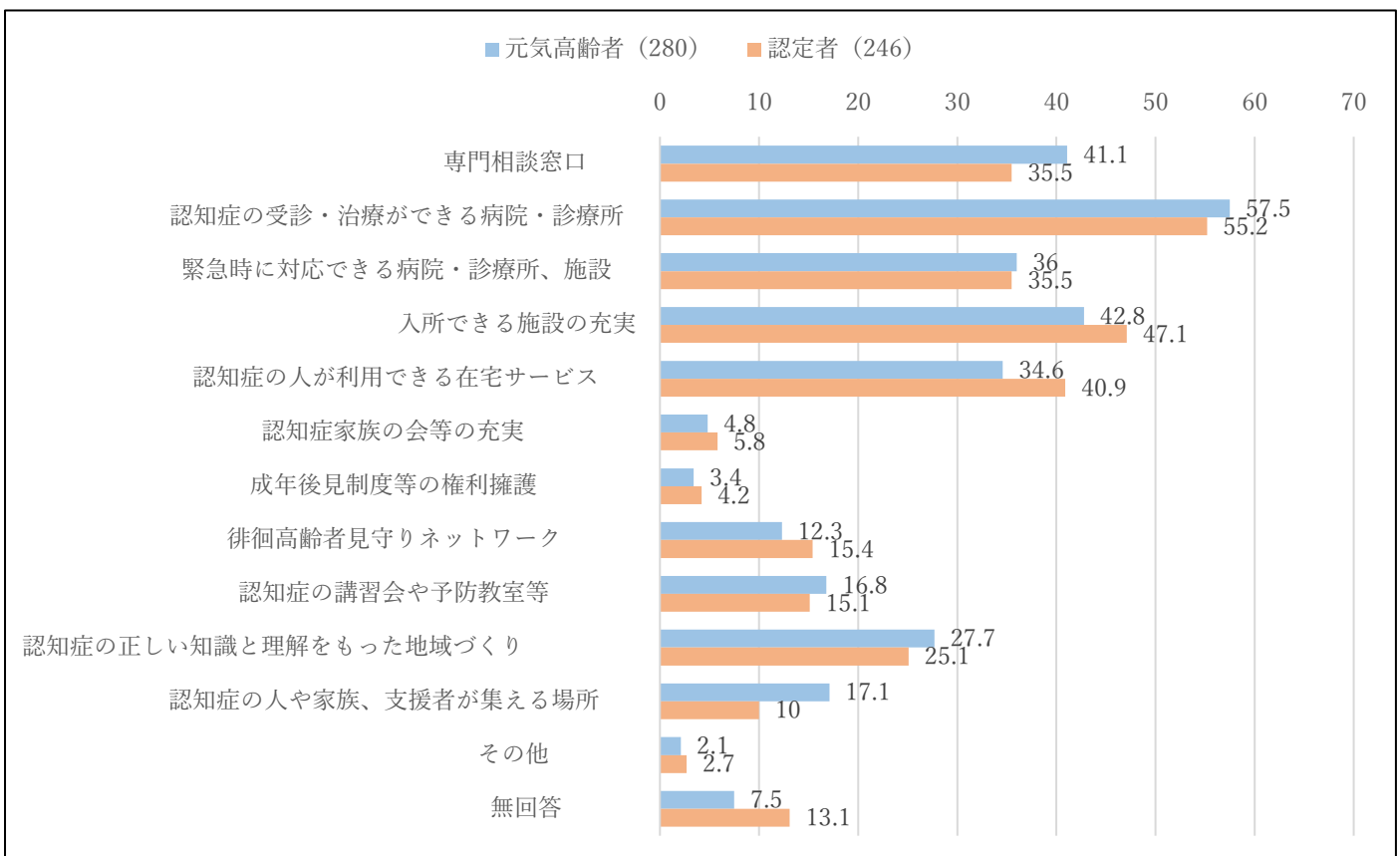
3 0 身近の方に認知症の疑いがあるときの相談先（元気高齢者）

「家族・親戚」が最も多く、次いで「かかりつけの医師」が多い。どちらも 5 割を超えている。



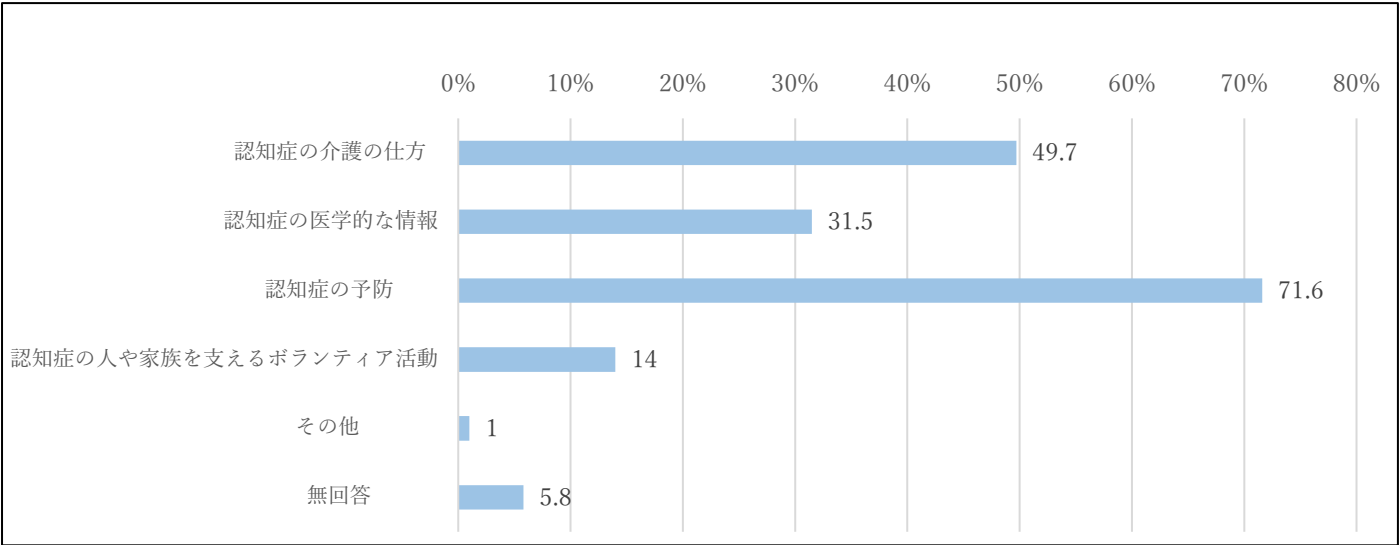
3 1 認知症の方が安心して暮らしていくための施策の希望（複数回答）

・認定者・元気高齢者ともに「認知症の受診・治療ができる病院・診療所の充実」が最も多い。



3 2 認知症について関心のあること (元気高齢者)

・「認知症の予防」に関心があるが最も多く 7 割を超えている。次いで「認知症の介護の仕方」が約 5 割いる。



3 3 認知症サポーター養成講座への参加意向

・参加したいと思う方（「ぜひ参加したい」＋「近くであれば参加したい」）が 4.5 割を超えている。「参加したいと思わない方」が 3.5 割を超えている。

